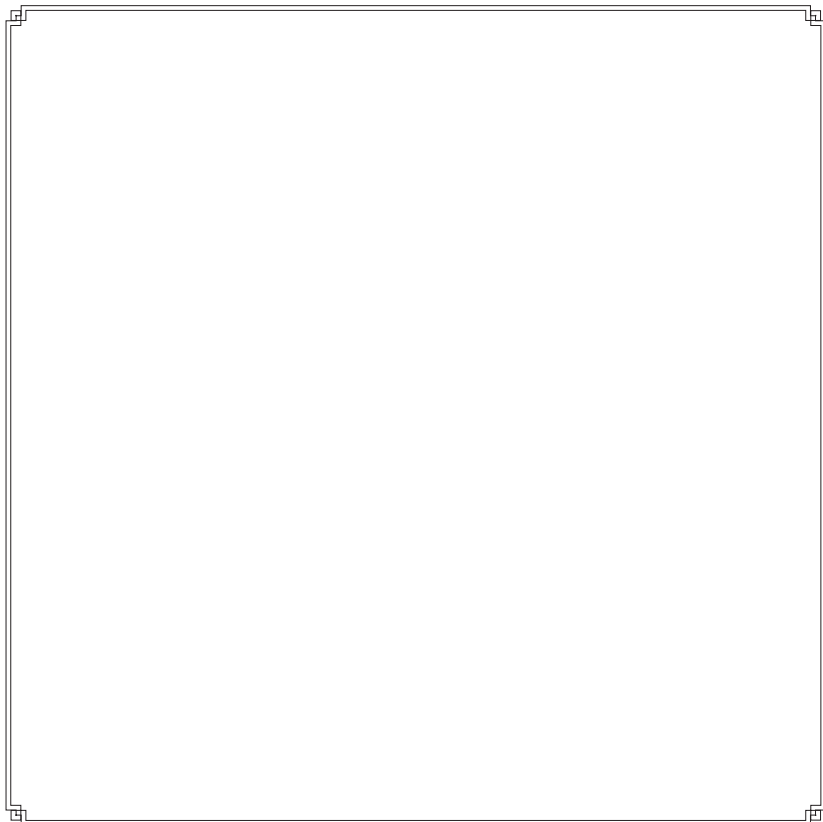


記念スタンプ



「一生を終えてのちに<sup>のこ</sup>残るのは、われわれが集めたものではなくて、われわれが与えたものである」

<sup>みうらあやこ</sup>三浦綾子『続氷点』「たそがれ」の章より



三浦綾子記念文学館

〒070-8007 北海道旭川市神楽7条8丁目2番15号  
電話 0166-69-2626 FAX 0166-69-2611  
www.hyouten.com

みうらあやこ し  
三浦綾子を知る

# ワークブック



きほんへん  
基本編

2017年6月

年 月 日 ( )

学校 年 組

名前

左綴じ  
両面刷り・白黒

# みうらあやこ 三浦綾子とは？

北海道旭川市あさひかわしで生まれ育ち、旭川市あさひかわしで作品を書き続けた、北海道を代表する作家です。小説やエッセイを多く書いたほか、絵本や劇の脚本げき きやくほんも作りました。代表的な小説は、『氷点』『塩狩峠』『泥流地帯』『天北原野』『道ありき』『銃口』『母』などです。

北海道を舞台にした物語が多く、自然の厳しさと美しさがよく描かれています。



1964年・三浦綾子  
撮影…太刀川写真館



## メモ・メモ・MEMO

今回、調べたり聞いたり読んだりしたことの感想を書いてみましょう。

# 家・学校・図書館で

## みうらあやこ さが 三浦綾子の本を探してみよう！

●お家に、三浦綾子の本があるかもしれません。家族にたずねてみましょう。もしかすると、その本を買った（もらった）時の思い出などを聞けるかもしれませんね。

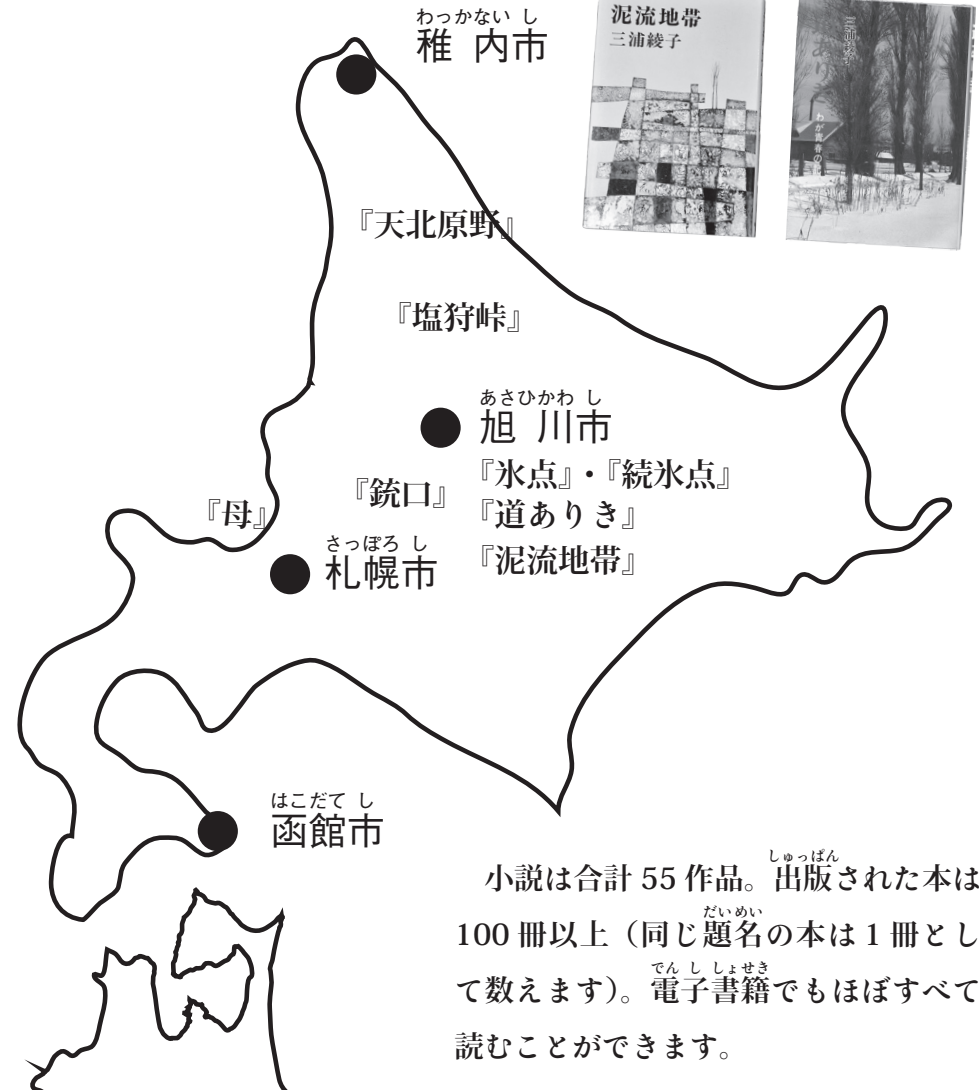
●図書館（図書室）で、三浦綾子の本を読んだり借りたりすることができます。司書の方か、先生にたずねてみましょう。著者（作者）で探すときは「ミウラアヤコ」で調べてみましょう。本の題名が分かっているときは、題名で探すことができます。

どんな本が見つかりましたか？

だいたい  
題名 ( )

だいたい  
題名 ( )

だいたい  
題名 ( )





子どものころ (左はし)



せいしゆん  
青春時代



きょうし  
教師時代



りょうよう  
療養時代



けっこんしき  
結婚式

ほったけ  
堀田家の10人兄弟の5番目と  
して生まれた綾子<sup>あやこ</sup>は、学校卒業  
後に教師<sup>きょうし</sup>になり、歌志内市<sup>うたし</sup>や旭  
川市<sup>あさひかわし</sup>の小学校で教えました。

昭和20(1945)年8月の太  
平洋戦争敗戦で学校のあり方が  
変わり、自分の教えてきたこと  
が間違<sup>まちが</sup>っていたことにショック  
を受けて教師<sup>きょうし</sup>を辞めました。その  
後、肺結核<sup>はいけつかく</sup>や脊椎カリエス<sup>せきつい</sup>などの  
大きな病気にかかり、13年間に  
もわたる療養<sup>りょうよう</sup>生活をしました。

どんな答えが返って来ましたか？

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ないよう  
内容は分かりましたか？

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

# 文学館で たずねてみよう！

●三浦綾子記念文学館は「博物館」なので、「学芸員」がいます。学芸員は、資料を収集・保管したり、展示を企画構成したりします。また、そのほかの職員でも研修を積んでいるので、三浦綾子や三浦文学についての質問に答えることができます。聞いてみたいことがあるときは、気軽に職員に声をかけてみてください。  
(質問の内容によっては答えることができないこともあります。そのときはゆるしてくださいね。)

「こんなことを聞いてみたい」という質問はありますか？

生きる希望を失って自暴自棄になりましたが、真剣に愛してくれる人に出会い、立ち直りました。けれどもその恋人は病気で亡くなり、また辛い思いをしました。その人が教えてくれた短歌と聖書で悲しみを乗り越え、その1年後に三浦光世と出会い、病気が治って37歳で結婚しました。



みうらあやこ  
三浦綾子の  
自伝小説は  
4冊



## ●『道ありき』・『この土の器をも』

教師を辞めてから結婚にいたるまでの時代のことを『道ありき』で、結婚してから『氷点』入選までのことを『この土の器をも』で自伝小説として詳しく書いています。

## ●『草のうた』・『石ころのうた』

幼い頃のことを『草のうた』で、学生時代と教師時代のことを『石ころのうた』で自伝小説として詳しく書いています。



『氷点』  
入選受賞式



口述筆記で執筆

昭和39（1964）年7月、朝日新聞社の懸賞小説に1位入選し、作家デビューをしました。42歳のときでした。それから35年、いろいろな病気に苦しみながらも、夫の光世の協力によって作品を書き続けました。

若いころの療養時代に、短歌で自分の世界を表現することを覚えた三浦綾子は、作家となってからはおもに小説で表現するようになりました。



三浦商店の前で



三浦綾子記念文学館  
オープン式典

### 『泥流地帯』

外は闇だった。  
星光一つ見えない。まるで墨をぬったような、真っ暗闇だ。  
あまりの暗さに、外に出た拓一は、ぶるっと体をふるわせる。  
いつもこうなのだ。もう六年生だというのに、拓一は夜、外に出るのが恐ろしい。

着物の前をめくりながら、拓一は左へ十歩数えて行く。人の気配に、馬小屋の中で馬が甘えていなく。

### 『銃口』

誰よりも先に夕食を終えた父の政太郎が、出窓の障子を大きくあけて、  
「おお、まだ雪が降っているな。竜太、飯を食ったら雪掻きをして来い」

と、竜太を見た。ガラス窓の外側に、太い格子が並んでいる。

### 『細川ガラシャ夫人』

家人たちが騎馬のけいこをしているのであろう。土塀の外を大声で笑いながら、二、三騎駆けて行く音がした。

澪子はいま、病後はじめて、離室の縁にすわり、庭ごしに母屋を眺めていた。うらうらとした春の日ざしが膝にあたたかい。  
(あとひと月)

澪子は病みあがりの肩をおとして、ほうっと溜息をついた。

# みうらあやこ 三浦綾子の本の“書き出し”を 読んでみよう！

「書き出し」と呼ばれる最初の数行を紹介します。  
どの作品でもそうですが、特に小説の書き出しは物語の世界を決める大事な部分です。三浦綾子の作品も印象的な書き出しが多く、読者をぐっと引き込む力があります。  
さあ、あなたは「読んでみたい」と思うでしょうか。面白そうなぴったりの本が見つかるといいですね。

## しおかりとうげ 『塩狩峠』

明治十年の二月に永野信夫は東京の本郷で生まれた。

「お前はほんとうに顔かたちばかりか、気性までおかあさんにそっくりですよ」

祖母のトセがこういう時はきげんの悪い時である。

## 『母』

四月にしては珍しい、あったかい日ですね、今日は。北海道の四月ったら、もっと寒いもんですけどね。増毛のほうの山も、はっきり見えて、海もきれいで、いい日だね。

それはそうと、本当にありがたいもんだねえ。わだしはね、再来年は数えで九十になるんですよ。



取材旅行  
上富良野町十勝岳にて



取材旅行  
大阪玉造教会にて



取材旅行  
和寒町塩狩駅にて



自宅でカラオケ

みうらあやこ  
三浦綾子の作品は「ひかりと愛といのち」というテーマであらわすことができます。三浦綾子は、自分の体験を土台に、あきらめないで生きることの大切さと、人を愛することの尊さ、命のかけがえのなさを、作品を通して語り続けました。

今も多くの人が作品を読んで、生きる希望と喜びを受けています。



三浦綾子記念文学館

三浦綾子の夫・三浦光世は新婚当時、営林署に勤めていました。旭川市神楽にある「見本林（正式名称：外国樹種見本林）」は、その営林署が管理していました。三浦夫妻はよくここを散歩に訪れていて、当時の鬱蒼とした雰囲気気に入って『氷点』の舞台に選びました。



「外国樹種見本林」の入口



1階 第2展示室

Q7

敗戦後に学校で子どもたちにさせて、三浦綾子が教師を辞めるきっかけにもなった出来事とは何でしょう？

( )

ヒント：第2展示室で探してみましょう。

Q8

三浦綾子が作品を書くときの、大きな特徴とは何でしょう？

( )

ヒント：第2展示室で探してみましょう。

夫の光世の協力で作品は生まれました。息がぴたり合わない、とても難しい作業です。

Q9

三浦綾子がパーキンソン病のときに、介護しやすいように作った家具は何でしょう？

( )

ヒント：第5展示室で探してみましょう。

上川地方は地元の木材を使った家具の生産が盛んです。展示されている家具は東川町の工房によるもので、立ち上がりやすいように設計されています。



Q5

昭和 50 (1975) 年に出版された、三浦綾子の初めての歴史小説は何でしょう？

( )

ヒント：第1展示室で探してみましょう。

戦国時代の女性が主人公です。1582年の「本能寺の変」で織田信長を討った明智光秀の娘であり、細川忠興の妻で、本名は玉子(たま)です。

Q6

三浦綾子は女学校を卒業後、小学校の教師として、ある町に赴任しました。それは現在の何市でしょう？

( )

ヒント：第2展示室で探してみましょう。

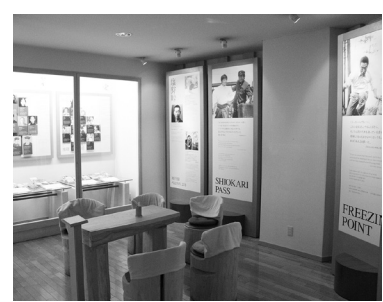
この町は、当時炭鉱で栄えていました。その周辺の町も炭鉱がたくさんありました。三浦綾子が教師をしていたこの時期は、特に石炭生産量が増えた頃で、町の人口も多く、小学校では1クラスに50人～60人もいたことがあったそうです。三浦綾子は熱心な教師でした。この時の経験が作品の多くに影響を与えています。



1階ホール

三浦綾子記念文学館は平成10(1998)年に、この『氷点』の舞台に、市民運動と募金によって建てられました。

全国および海外からたくさんの方々が訪れ、平成27(2015)年には、入館者数が50万人に達しました。



1階 第3展示室



2階 第4展示室

# 文学館と見本林で見つけてみよう！

Q1

見本林<sup>ちゅうしゃじょう</sup>駐車場から文学館アプローチ付近にかけて立っている、背<sup>せ</sup>の高い木々の名前は  
何でしょう？

( )

ヒント：『氷点』に登場します。

見本林は「外国樹種見本林<sup>じゅしゅ</sup>」が正式な名前で、明治31年にできた国有林<sup>こくゆうりん</sup>です。旭山動物園<sup>あさひやま</sup>とほぼ同じ広さがあります。

Q2

昭和37年<sup>あさひかわし</sup>に旭川市と姉妹都市<sup>しまいと</sup>を提携<sup>し</sup>したのはアメリカ合衆国<sup>ていけい</sup>の何市と何市でしょう？

( )

ヒント：記念塔<sup>きねんとう</sup>を探してみましよう。

姉妹都市提携<sup>しまいと</sup>20周年<sup>しゅう</sup>を記念して、見本林<sup>しゅう</sup>に記念塔<sup>きねんとう</sup>が建てられました。自由と平和を願って鐘<sup>かね</sup>がなります。塔<sup>とう</sup>の先端<sup>せんたん</sup>には風車がついています。

Q3

見本林には多くの野生動物<sup>やせい</sup>が暮ら<sup>く</sup>していますが、そのうち、クルミなどの木の実<sup>ちよぞう</sup>を貯蔵<sup>ちよぞう</sup>する習性<sup>しゅうせい</sup>がある、小型<sup>こがた</sup>の動物は何でしょう？

( )

ヒント：静かに耳<sup>しず</sup>をすまして、木の枝<sup>えだ</sup>や地面<sup>さが</sup>を探してみましよう。

この動物<sup>どうもん</sup>は冬眠<sup>とうみん</sup>をしません。木の上に巣<sup>す</sup>を作ることが多いです。ジャンプが得意<sup>とくい</sup>で、木から木へ、軽々<sup>かるがる</sup>と飛び移<sup>と</sup>って移動<sup>いどう</sup>します。

Q4

見本林には多くの野鳥<sup>やちょう</sup>がいますが、「ドラミング」と呼ばれる、木をつつく習性<sup>しゅうせい</sup>がある黒・白・赤の模様<sup>もよう</sup>がある鳥は何でしょう？

( )

ヒント：静かに耳<sup>しず</sup>をすまして、ドラミングの音<sup>ね</sup>を聞いて、探<sup>さが</sup>してみましよう。

見本林には「ヤマゲラ」というキツツキも飛<sup>と</sup>んできますが、多くは黒と白と赤<sup>おす</sup>（雄<sup>おす</sup>は頭<sup>あたま</sup>が赤い）のキツツキです。文学館の壁<sup>かべ</sup>にも突<sup>つ</sup>つかれた穴<sup>あな</sup>があります。